

学外実習 (Internship)	4 年・夏季・1 単位・選択 物質化学工学科 担当 三木 功次郎・直江一光	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (4)		
<p>〔教育方法等〕</p> <p>概要： 学生が企業等での就業体験を通して自分自身を見つめ直し、企業や社会の実際を知ることにより、学習意欲・自律性・創造性などを向上させ、職業選択の際の意識作りに役立たせる。</p> <p>授業の進め方と授業内容・方法： 受け入れ可能企業から学生の希望により決定した実習先において、夏季休業期間中に 5 日間・30 時間以上、実習先担当者との指導のもとで実習を行う。実習後、学外実習修了証明書、業務日誌、学外実習報告書を提出するとともに、実習報告会において学外実習報告書に基づき発表を行う。</p> <p>注意点： 関連科目 一般科目、専門科目を問わず、これまでに学んだ全ての科目が関連する。</p> <p>学習指針 事業所（企業等）と学校の連携による創造的技術者の育成に役立つ科目なので、積極的かつ真面目に取り組めば、大きな成果が得られる筈である。</p> <p>自己学習 目標を達成するためには、授業以外にも実習に関する予習復習を怠らないこと。</p>		
<p>〔教科書〕 事前のガイダンス資料を参考にする。</p> <p>〔補助教材・参考書〕 昨年度までの学外実習報告書（冊子体）</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来に向けた職業意識の形成を図る。 ・ 実践現場における就業体験により自己能力の開発を促すことができる。 ・ 就業体験を通して技術者としての心構えを身につける。 		
<p>〔評価割合〕 実習先での学外実習修了証明書及び業務日誌 (50%)、学外実習報告書 (25%) 及び学外実習報告会 (25%) を総合して評価する。(4 点全て満たすことを合格の条件)</p>		

授業計画

	週	授業内容・方法	到達目標	自己評価*
前期	1 週	1. 実施時期 2. 実施期間 3. 実習内容 4. 学外実習先	夏季休業期間中 5 日間以上にわたり、合計 30 時間以上 研究補助・品質管理・材料試験・設計・生産技術・生産管理など 学科が認めた実習先 (民間企業、高専機構との連携がある研究機関、行政機関)	
	2 週	5. スケジュール	5 月 学外実習ガイダンス ・ 概要説明 ・ 安全教育 ・ 希望調査と割り振り	
	3 週		6 月 実習先決定 ・ 受け入れ可能実習先を順次提示 ・ インターンシップ(学外実習)申込書 (写真貼付)を提出	
	4 週		・ 実習先希望調査 → 調整 ・ 誓約書提出 ・ 学外実習の心構えなどの事前学習	
	5 週		7 月 ・インターンシップ保険加入手続き(学生課) ・学外実習事前指導講習会(特別講演) ・物質化学工学科としての事前指導も実施	
	6 週		7~8 月 実習 ・ 実習先でのオリエンテーション ・ 実習 ・ 日誌および報告書の作成	
	7 週		9 月 学外実習のまとめ ・ 報告書等(学外実習修了証明書、業務日誌 学外実習報告書)の提出 ・ 学外実習報告会にて発表 (3C, 4C 学生が出席, 物質化学工学科教職員 3C 及び 4C 学級担任が出席し, 評価)	
	8 週			
	9 週			
	10 週			
	11 週			
	12 週			
	13 週			
	14 週			
	15 週			
	16 週			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった